

## フィンドレー大学への交換留学 月例報告書 1月分

今月の活動報告です。1月から春学期がはじまりました。もっと新しいことに挑戦するという目標をたて、秋学期ではできなかったことにたくさんチャレンジできました。その中でも2つ取り上げて活動報告書にしたいと思います。

まず、1つ目は Food Pantry という食料に困っている人々に食料を配布するボランティア活動に参加しました。その中で感じたのはボランティア活動にありがちな「やってあげる」「やってもらう」という関係ではなく「コミュニティの交流の一つ」として見ているのが大きな違いだと思いました。アメリカは“違う”ことが当たり前の国です。その人種も考え方も“違う”人たちをまとめるのがこの“コミュニティ”という考えなのだ実感しました。食料をもらうために並ぶ人たちを「数」として扱うことはなく大学に来てくれた「ゲスト」としておもてなしをします。笑顔を絶やさずに、チケットをもらうときにはスモークトークを挟み会話を楽しみます。また、どこからかスピーカーを持ってきてノリノリの音楽をかけながら食料を配布しました。みんなで楽しくコミュニティの人たちと交流しようという気持ちが伝わってきて私も自然と体が動きました。そして、その日初めてあう人ばかりの活動で自分の意見を言えるようになったのは大きな成長だと思います。今までは典型的な日本人のように「みんなで意見をそろえる」ことが大切、波風を立てない最良の方法だと考えていましたがやはりここはアメリカ、自分の意見を言わなければいけません。車がなくて列に並べない人、英語が話せない人にどう対応するか、また数十個しかないチョコレートケーキを誰に渡すかなどイレギュラーな対応を求められます。そんな時に誰も「あなたは どう思う？」と聞いてくれません。みんなの意見と違っても自分の意見を話し始める、たどたどしい英語でも理解してもらうように努力することができこの留学にきて一つの成長を実感できました。ちなみにチョコレートケーキは子供がいる家庭にあげたらどうかという私の意見が採用されてとても嬉しかったです。

雪が降り、気温が0度を下回るなか朝早くからの活動でした。その中で何百人の人たちの車に一つずつ手作業で食料を運んでいかなければなりません。始まる前にその内容を聞かされたときは「家に帰らせてくれ…」と正直思っていました但最终的に204家族、452人の人々に食料を配布し、それだけではなくコミュニティの繋がり、臨機応変に対応する力、自分の意見を言う力など多くのことを学べた良い1日となりました。

留学生活も後半に入り、いつも一緒に勉強をする友達、ルームメイトと過ごす日々は自分の中での居心地の良い場所になっています。しかし、そこをあえて飛び出して誰も知っている人がいない活動に参加することで新たな成長が見えるのだと実感しました。2月もその気持ちを忘れずに留学生活を頑張っていきたいと思います。



フードパントリーの写真です。  
段ボールに積みあがっているもの  
の全て配布しきりました

